



「信頼される介護福祉士になりたい！」

佐久市中込にある、介護老人保健施設安寿苑で介護職員として働く井出 綾世さん。
井出さんは高校を卒業し、介護の道へ進み半年がたちました。
佐久市出身で、地元の高校へ進み卒業と同時に就職を決めました。
現在は介護福祉士の資格取得を目指し、日々勉強中です。

介護福祉士を目指すきっかけは小学生時代に祖父が通っていた通所施設の職員です。

とても怖いおじいちゃんて笑わない固い人だったが、通所施設の職員さんが送迎にきて接しているときに、見たことのない笑顔をしていたとのこと。そのことがきっかけで、介護の道へ進みました。

就職のきっかけは、祖父の通っていた施設が恵仁会だったことです。いつも怖かったおじいちゃんがここ（恵仁会）へ来ると笑顔になっていた。そうしたご縁もあった恵仁会へ高校卒業と同時に就職となりました。

○仕事をしていて、楽しいことは何ですか？

「今は初任者研修をとり、身体ケアができるようになったので利用者さんに名前を覚えてもらえることが増えてうれしいです。ありがとうと言ってもらえることが本当にうれしい。施設の職員さんもいい人ばかりでとても充実した生活を送っています。」

「介護の道を歩んで半年。今思うこと。」

「8時半までに出勤して、利用者さんのバイタル測定、お茶出しやトイレ誘導、食事介助などの仕事をしています。朝起きて、仕事に行く。という当たり前のことが当たり前にできるようになりました。仕事を始めて、高校生の時にはなかった社会人としての責任感が生まれた気がしています。もう少し勉強したら、夜勤の担当もやるようになります。利用者さんと職員さんに早く覚えてもらって、信頼される介護福祉士になりたいです。」



○お休みの日は何をしていますか？

「社会人になり車の免許を取ったので、いろんなところに行きます。同じ職場で働くインドネシアから来ている外国人職員とラーメンを食べに行きました。いろいろな人と交流ができて楽しいです。」

○最後に同世代に向けて

「マイナスイメージを持たれがちな介護の仕事ですが、決してそんなことはなく、こんなにありがとうと言われる仕事はないと思います。無資格、無経験で始めることができ、家族の介護にも生かすことができます。もっといろいろな人に介護に興味を持ってもらいたいです。」

(インタビューをしてみて)

社会人になり半年で初々しさがああり、インタビューの最初は緊張していましたが、次第に自分の思いを熱く語っていただけました。小さい頃の経験がきっかけとなり、現在の仕事につながっているという話がとても印象的でした。

これからの介護現場には、若い力が必要不可欠です。多くの若い世代の方に、井出さんの活躍を知っていただきたいです。